

第 64 回国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

渋谷教育学園渋谷中学校 1 年

副島 楓

課題①

よりよい未来に向けてあなただったら国連の場で何を訴えたいか。

副題

開発協力と自調自考

私の通う学校では、『自調自考』という考え方が理念として取り入れられている。これは、『自分で調べ、自分で考える』というだけでなく、『自分を調べ、自分を考える』という意味があり、私がこの六年間で身に着けたい大切な目標である。

そんな自調自考を学ぶ学生生活の中で、私は【世界と日本を世界銀行を通して考える】というイベントに参加した。そこで、「開発協力って、結局は西洋の考え方を発展途上国に押しつけていることにならないか」というテーマで討論をした際、この『自調自考』がヒントになりそうだと、私は考えていた。

西洋諸国は、考え方や価値観を発展途上国に押し付けるのではなく、様々な考え方を選択肢として提示する。発展途上国は、元々自分達が持っていたものと比較することで、視野が広がる。そうすれば、西洋諸国に言われるがままであったり、逆に西洋諸国の意見を固辞し、自分達が持つ技術を客観的に見る機会を手放したりするよりも、よりよい選択肢を選ぶのではないかと思うのだ。

例えば、発展途上国①に、西洋諸国②・③が土木工事（水路を造りたい）の開発協力をしようとしていると仮定すると、②・③が自国の高度な技術Ⅱ・Ⅲを押し付けた場合、工事が上手くいっても、①に残るのは、完成した水路と、押し付けられたことによる②・③への、ひいては西洋諸国への不信感だと思う。

だが、①が、②や③のよりよい技術を知り、学び、自分達で話し合って決めることができれば、自国で使ってきた技術Ⅰと比較して、客観的に判断を下せるだろう。また、ⅠとⅢを組み合わせたら、新たに自国に合ったⅣができるかもしれない。この場合、工事が上手くいき、水路ができたという結果より、自分達で相談してよりよいと思われる選択をしたという自信や、達成感という過程の方が大切なのではないかと思うし、前者と後者を比較すると、開発協力をする側もされる側も、後者の方がメリットは多いのではないだろうか。

では、この開発協力の仕方と冒頭で述べた『自調自考』には、どんな関係があるのか。

先程の例を使うと、②が①に、「水路がいののか？俺様の国は土木工事の技術を持っているからな、手を貸してやるよ」と言い、勝手に造ったのでは意味がない。ここまで極端な事例は少ないだろうが、開発協力をする側とされる側では、パワーバランスが偏っている。それ以前に、経済的に貧し

い国と、裕福な国では、力関係が平等ではないために、差はあれども、西洋諸国からの働きかけて開発協力をする場合、発展途上国側が弱くなるだろう。ならば、㊤が自ら水路を造りたいと思い、各国の持つ技術を自ら調べ、依頼すれば、㊤は自分達でしたことに責任が生まれ、積極的に工事に関わるようになるだろう。これが『自調自考』の一つ目の『自分で調べ』にあたる。

二つ目の『自分で考える』とは、自国のことは、自分達で決めるということだ。自分達で調べ、考え、話し合って決めたことは、経験として蓄積され、次はもっと良い方法に修正できるだろう。

また、三つ目の『自分を調べ』として、各国の技術を学ぶ中で、自国の技術の比較対象ができ、今までの当たり前が覆るだろうし、四つ目の『自分を考える』として、多様な価値観を学び自国の価値観を見つめ直せば、自国の文化についてさらに知りたくなるだろう。

つまり、私が言いたいことは、開発協力の際、経済発展につながる選択肢を広げる為に、『自調自考』を取り入れたら、国同士の関係が多少なりともいい方向に向かうのではないかということだ。もちろん、実際の政治家からすると、私の意見はありえないことかもしれない。自分でも夢を見すぎだとは思う。だが、政治や歴史を学ぶ意味とは、そんな手の届かない理想を、現実的な目標にするためのヒントを得るためではないだろうか。